

* Team C アナストロゾール+ゾメタを 明らかな増悪まで継続

愛知県がんセンター中央病院	吉村 章代
北海道がんセンター	馬場 基
愛知県がんセンター中央病院	小谷 はるる
三重大学医学部附属病院	野原 有起

* 病勢の進行

多発骨転移診断時のTumor marker上昇
→病勢を反映している。


再上昇→体内の腫瘍量の増加を反映している
可能性は高い

しかし



腫瘍マーカーの増高のみに対して治療を変更
することで何らかの利益はあるのか・・・??

ANTICANCER FUND



GOOD SCIENCE
BETTER MEDICINE
BEST PRACTICE

European Society for Medical Oncology

If the balance between benefits and side-effects is not favourable, new treatment options should be discussed between the patient, family and doctors.

For some patients, measuring the blood levels of substances called tumor markers such as CA15.3 or CEA may be done to help in the evaluation of treatment response. A tumor marker decrease would indicate that the treatment is efficacious and an increase would indicate the opposite. However, these tests are not very reliable and their use is usually restricted to patients for whom no radiological tumor assessments are available.

* 再発治療の3つのP

Palliate Symptom= 症状緩和

→ 症状はない

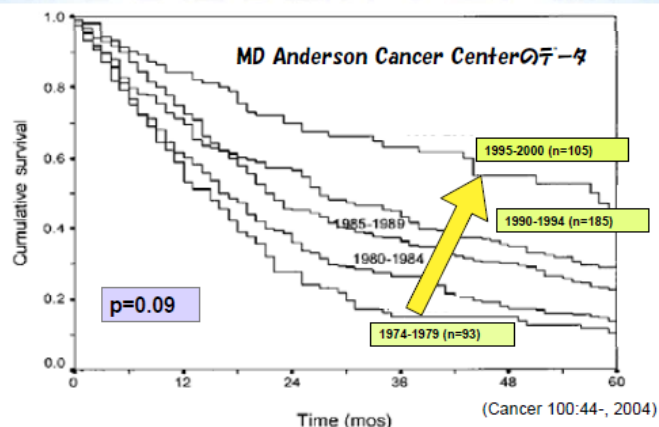
Prevent Symptoms=症状発現の先送り

→画像評価で増悪なし=骨折を来しそうな病変はなし

Prolong Survival = 延命

→Tumor markerの増悪のみで治療変更をした方がOSが延長するというエビデンスはない

* 限りある持ち駒は大事に使いたい



再発からの生存期間は経年的に延長してる

* 限りある持ち駒は大事に使いたい

ホルモン治療薬

閉経前	閉経後
ゾラデックス	ノルパデックス
リュープリン	フェアストン
ノルパデックス	アリミデックス
	アロマシン
	フェマーラ
	ヒスロンH

抗がん剤

アドリアマイシン	タキソール
ファルモルピシン	タキソテール
ナベルピン	5-FU
エンドキサン	UFT
TS-1	CPT-11
メソトレキセート	フルツロン
ゼローダ	MMC

分子標的治療薬

ハーセプチン
ラパチニブ
パージェタ

* 再発治療の3つのP

Palliate Symptom → 現在症状は無い

Prevent Symptoms → 画像上増悪なし

Prolong Survival
→ 治療変更でOS延長の十分なエビデンスはない

持ち駒を早く使用することは化学療法の導入を早めてしまい、結果的にQOLを損なう

* 結論

今回のcaseでは
アナストロゾール+ゾメタを
明らかな増悪まで継続

* 最終弁論

* 最終弁論

骨転移単独の症例では、腫瘍マーカーの増加のみで治療変更すべきではない

限りある持ち駒を温存しできるだけQOLを保てる選択肢を残すべきである

* **結論**

今回のcaseでは
アナストロゾール+ゾメタを
明らかな増悪まで継続